Kawara-Ban

名大病院 NEWS かわらばん

2018.10 110号

CONTENTS

① ・急性期リハビリ、がんリハビリを提供するリハビリテーション科を新設しました
・診療科レポート「呼吸器外科」
・1,000例達成！名大病院でのロボット支援手術

② ・外来化学療法室で活動する薬剤師のご紹介
・株式会社フィリップス・ジャパンと包括的提携に関する基本合意書を締結しました
・ミニニュース
・ナディック通信

③ ・名大病院臨床研修医のご紹介
・がんゲノム医療中核拠点病院指定記念講演会を開催
・季節のお話「急な運動とケガ」
・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い
・禁煙のお願い

④ ・多職種連携に基づくチームの力で大手術後の患者さんの回復をサポート
・平成30年度鶴舞公開講座
・健康講座「妊娠中の母子感染症に注意」
・ボランティアさん募集
・かわらばん HP のご案内

名古屋大学医学部附属病院

理　念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。 3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地　TEL 052-741-2111（代表）
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

特集 TOPICS ① 急性期リハビリ、がんリハビリを提供するリハビリテーション科を新設しました

平成30年4月、名大病院はリハビリテーション科を新設し、診療科数は35へと拡充しました。
リハビリテーション科の特色や今後の展望について、診療科長の西田佳弘病院教授にお話を伺いました。

術前や手術当日からリハビリを提供

当院には以前からリハビリテーション部があり、医師、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などが治療や検査を行ってきました。今回のリハビリテーション科開設により、科にはリハビリテーション科専門医が、部には各療法士が所属し、互いに協働する体制を整備。より質の高い医療の提供が可能となりました。

当院は主として超急性期、急性期の患者さんを対象とする病院であるため、リハビリテーション科においても主に超急性期、急性期リハビリを提供しています。脳梗塞の場合などは手術当日からリハビリが必要とされてきていますし、術前や入院前からリハビリを行う「プレハビリ」の取り組みも始まっています。術前からリハビリを行うことで術後の合併症を減らし、より早い回復につなげることが狙いです。

各診療科と協働し、患者さんそれぞれのゴールを共に目指す

リハビリテーション科の根本は、疾病だけでなく障害を含めて人全体を診ることにあります。患者さんはライフスタイルも職業も異なり、退院後のゴールは一人ひとり違います。病気だけを診て手術が成功しても、障害を乗り越えて家庭や社会に戻ることができなければ、患者さんの治療への満足度は上がりません。そこを高めていくのが、リハビリテーション科の医師や看護師、各療法士、ソーシャルワーカーなどの役割で、すべての診療科の治療を支えています。

またこれからの高齢社会では、高齢の状態で侵襲性の大きい手術を受けるよりも、社会的な役割を果たしながら残りの人生を全うできる治療を望む方も増えるのではないでしょうか。ライフステージに合わせた診療を行うには、病気を治すことだけを考えるのではなく、主診療科とリハビリテーション科が協働し、患者さんに適した治療を選択することも重要だと感じています。

拠点病院としてリハビリネットワークを構築

当院はがんゲノム医療中核拠点病院でもあり、患者さん個人ごとに最適な治療法を分析・検討するprecision medicine（プレシジョン・メディシン）が、リハビリテーションの分野でも今後重要になると考えています。またがん患者さんの診療が多いことから、今後は特にがんリハビリに力を入れたいと考えています。がんリハビリでは、身体の衰弱や筋肉の減少など、がんに付随する症状に対して総合的にリハビリを行うほか、乳がん手術後のリンパ浮腫など、各がんの合併症や治療によって起こる障害に対するリハビリも行います。

さらに、多種多様なリハビリに対応できる専門医を増やし、希少疾患も含め多くの疾患に対応できるリハビリテーション科の構築を目指しています。もちろん、リハビリは当院だけで完結するものではありません。いずれ当院を中心に周囲の病院と連携し、急性期、回復期、維持期、生活期に至るまで、患者さんをトータルで診るリハビリネットワークを形成したいと考えています。

1,000例達成！名大病院でのロボット支援手術

泌尿器科長　後藤　百万

当院では早期にロボット支援手術システム「ダ・ヴィンチ」を導入し、2010年5月に前立腺がんに対して第1例のロボット手術を行いました。その後、2012年4月に前立腺手術、2016年4月には腎がんに対する腎部分切除術が保険適用となり、さらに2018年の保険改訂により、肺、縦郭、胃、食道、膀胱、子宮など12種類のロボット手術が保険適用になりました。当院では現在最新型のダ・ヴィンチ Xi が稼働しており、今年6月18日にロボット手術1,000例を達成しました（前立腺がん823、腎がん95、膀胱がん9、大腸がん21、胃がん8、子宮がん10、縦郭14、肺がん20）。今後も日本ではロボット手術が急速に増えることが予想されますが、当院でも安全で低侵襲なロボット手術を進めていきます。

最新式ロボット支援手術システム
da Vinci Xi（ダ・ヴィンチ Xi）

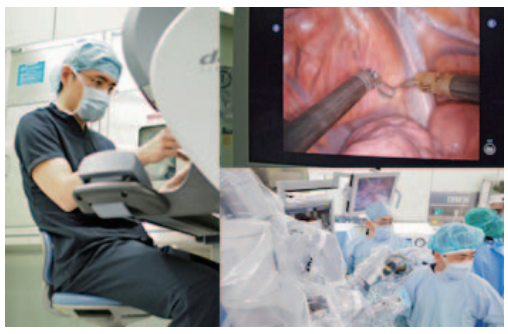
診療科レポート「呼吸器外科」

呼吸器外科　病院助教　羽切　周平

呼吸器外科では肺がんを中心として、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、悪性胸膜中皮腫などの胸部悪性疾患や、気胸や胸部外傷などの良性疾患に対する外科治療を行っています。当科は10名のスタッフで患者さんを診療しており、全身麻酔手術件数は昨年度386件で、全国的にも多くの手術を行う施設となっています。

胸部疾患の手術は近年胸腔鏡による手術が増えていますが、当科でも適応を慎重に検討しながら積極的に取り組んでいます。また当科の特徴として、進行悪性腫瘍に対する拡大手術を行っていることが挙げられます。拡大手術とは悪性腫瘍を完全に取り除くために、肺を広範囲に切除したり、気管支形成や血管形成を行ったり、胸壁・肋骨や大血管、横隔膜などの周囲臓器を腫瘍とともに切除・再建することをいいます。さらに手術の前後に抗がん剤や放射線治療を組み合わせた集学的治療を行い、治療成績向上に努めています。

また今年4月より肺がんや縦隔腫瘍に対して保険適応となったロボット支援手術が呼吸器外科領域でも注目されていますが、当科においては数年前より積極的に導入し、現在通常の手術技術として定着させています。肺がんや縦隔腫瘍の患者さんで興味を持たれる方は、ぜひ外来にて担当医にお尋ねください。



ロボット支援下肺切除術の手術風景

特集 TOPICS ②

外来化学療法室で活動する薬剤師のご紹介

薬剤部　がん専門薬剤師　宮崎　雅之

近年、分子標的薬や免疫療法薬などの新しいタイプの抗がん薬が開発され、現在使用されている抗がん薬の種類は、従来の抗がん薬に加えて多岐にわたっています。一方で抗がん薬は様々な副作用を示すため、その予防や対策が重要とされています。日本では2007年に、がん領域の薬物治療の専門家として高度な知識や技術、臨床経験を備えた「がん専門薬剤師」が日本医療薬学会において発足し、当院では5名のがん専門薬剤師が、がん薬物療法を支えています。

また外来で抗がん薬の治療を受ける患者さんは全国的にも急増しており、当院でもその患者数は顕著に増加しています。外来化学療法室では抗がん薬の効果を最大限に発揮し、副作用を最小限にとどめ、外来で安全に治療ができるよう医師、薬剤師、看護師によるチームで患者さんと共に治療に取り組んでいます。

私たち薬剤師は、「薬の専門家」として外来化学療法室で様々な活動を行っております。①抗がん薬の治療計画（レジメン）を医師と共に作成し治療しています。②個々の患者さんの抗がん薬の投与量や投与スケジュールなどの医薬品適正使用について、複数の薬剤師が確認し、必要に応じて医師に問い合わせ（疑義照会）を行っています。③外来化学療法室内に設置された無菌室で注射薬を調製しています。また、電子システムを用いて抗がん薬の種類や投与量について正確に調製できていることをチェック（鑑査）し、ヒューマンエラーの削減に取り組んでいます。④患者さんが治療による副作用で苦労している時、治療に対する不安や心配がある時、内服薬の服用方法が分からない時、痛みなどがんに伴う症状に対する治療の薬で困っている時に、安心して薬物治療を受けられるよう、必要に応じて薬の説明（服薬指導）を実施しています。

外来化学療法室ではがん専門薬剤師を中心とした薬剤師が、良質で有効かつ安全ながん薬物治療を患者さんが受けられるよう、日々活動しています。薬に関することはいつでも外来化学療法室の薬剤師にご相談ください。

株式会社フィリップス・ジャパンと包括的提携に関する基本合意書を締結しました

名古屋大学と株式会社フィリップス・ジャパンは、6月25日（月）、次世代型IoT※イノベーションを活用した医療スキームの開発において、単一の大学や病院組織を超えた地域包括システムの開発の検討を行うための、包括的提携に関する基本合意書を締結しました。

今後、①国立大学改革に伴う法人統合も視野に入れた東海地区全体の膨大なクリニカルデータの学術的活用、②健康医療信託事業／（在宅）医療・介護連携支援システムの開発、③認知症や生活習慣病の予防、重症化抑制を目的とした支援システムの開発、について共同で研究を推進するための検討を行う予定です。

6月25日の締結式には、名古屋大学からは当院の石黒病院長及び門松医学系研究科長が、フィリップスからはオランダ本社のフランスCEO、フィリップス・ジャパンの堤代表取締役社長が出席し、双方より今回の基本合意による提携への抱負と今後の展望が述べられました。

左から、石黒病院長、門松研究科長、フランスCEO、堤社長

※IoT：「モノのインターネット」のこと。あらゆるモノがインターネットを通じて接続され、モニタリングやコントロールを可能にする仕組みを指します。

■ミニニュース

「コンサート」を開催しました

中央診療棟A 2階ピアノ広場において、4月3日(火)に『NPO法人 サポートフレッシュ』、4月26日(木)に『エンカレッジ』、6月19日(火)に『名古屋ゴールデンエイジ・メイルクワイヤー』、7月4日(水)に『レヴィオッテ』の方々によるコンサートを開催しました。

季節を感じる曲目や話題の曲目などが発表され、楽しいひとときを皆さんが過ごされました。

▲4月3日に行われたコンサート

▲4月26日に行われたコンサート

▲6月19日に行われたコンサート

▲7月4日に行われたコンサート

Nagoya Disease Information Center ナディック通信

がん関連資料コーナーを設置しました

患者情報センターでは患者さん、ご家族が安心、納得して医療を受けることを手助けするため、信頼できる医療情報の提供を行っています。またご自身で情報収集ができるよう、さまざまな形で情報を提供しています。

今年7月には新たにがん関連の情報コーナーを設置しました。その他にも分かりやすい資料がたくさんありますので、ぜひご活用ください。

〈場　　所〉 中央診療棟A 2階　広場ナディック
〈利用時間〉 平日10時～16時
（年末年始及びゴールデンウィークを除く）

特集 TOPICS 3

名大病院臨床研修医のご紹介

名大病院では現在、医科歯科合わせて34名の研修医が医師としての道を歩み始めています。
新シリーズでは隔回掲載で、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みをご紹介します。

光里　翔（医科研修医）

現在は各診療科をまわり病棟業務のお手伝いをしながら、手術の助手、処置の見学・補助、カンファレンスの参加等をしています。夜は当番制で救急外来を担当し、患者さんの診察・処方等を行っています。

手技を始め様々なことが拙く、時間がかかったり上手くいかないことが多いので、早く上達したいと思っています。医師は一つ一つの発言に責任を持つことが大切だと考えています。その事をこれからも忘れないようにしていきたいと思っています。

森　真有子（医科研修医）

私は現在、内科での研修と救急外来での仕事を行っています。昼休みや勤務時間後には院内で開かれる勉強会にも参加しています。

救急外来ではいまだ慣れないことが多く、各科の先生方や先輩の研修医の先生方にサポートしていただきながら毎回仕事をこなしています。処置の後、具合が良くなってご帰宅する患者さんの笑顔を糧に頑張っていきたいと思います。まだまだ未熟ではありますが、患者さんに寄り添える医師になりたいと思います。

西脇　寛（医科研修医）

私は現在精神科で研修を行っています。毎朝初診の患者さんの予診を取り、その後上級医の先生の本診に陪席しています。その他、病棟業務として入院患者さんの回診を行っています。

学生時代に学んでいた医学知識だけでは、なかなか実感を持って診療を行うことができません。実際の患者さんの診療を通してこそ理解が深まり、使える知識になると実感しています。現在の研修医としての経験を、今後の医師人生に生かしていきたいと思っています。

岡田　拓士（歯科研修医）

歯科研修医は先生方のもと歯科治療を学ばせていただくだけでなく、初診の担当や仮歯（TEK）、マウスピース等の技工物の製作をしています。

まだ右も左もわからず、苦労してばかりですが、先生方のご指導の下、日夜努力しています。上級医の先生方、先輩医師の方々のアドバイスを受けながら勉強する毎日です。まだまだ未熟ではありますが、精一杯努力して早く一人前の口腔外科医になりたいです。

※医科研修医の診療科は執筆当時

季節のお話

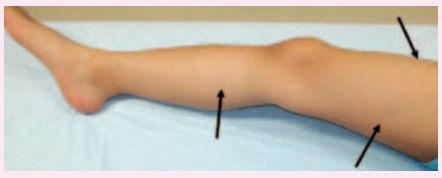
急な運動とケガ

リハビリテーション科長　西田　佳弘

スポーツの秋です。楽しく、ケガなく汗を流したいですね。若い頃は関節や筋肉が柔軟であるため、急に走る、ジャンプするなどをしてもケガにつながることは稀です。しかし、大人になって普段運動していないのにもかかわらず、昔のイメージで急に運動すると、筋力不足から転倒して関節を捻挫したり、筋肉が硬いのに急に伸ばして肉離れ（筋損傷）を起こしたりします。ケガをしやすい部位は、捻挫なら足関節・膝関節、肉離れなら太ももの裏やふくらはぎ、場合によっては太ももの前面を損傷する場合もあります（図の矢印部分）。

ケガをした場合はRICE（Rest安静、Ice冷やす、Compression圧迫する、Elevation患部を挙上する）といわれる処置をしましょう。これらの応急処置をすることでケガからの回復期間が短くなります。また整形外科を受診して、どこを損傷したかを正確に診断してもらいましょう。

しかし、ケガはしないに越したことはありません。予防が重要です。肉離れを起こさないためには運動前に太ももの前面・後面、ふくらはぎの筋肉を充分にストレッチすることが重要です。また同時に筋力トレーニングも行うと転倒予防になり効果的です。充分にストレッチをしてからスポーツを満喫してください。



肉離れを起こしやすい部位

がんゲノム医療中核拠点病院指定記念講演会を開催

今年2月にがんゲノム医療中核拠点病院に指定されたことを受け、7月31日（火）に中央診療棟Ａ 3階講堂において、「ゲノム医療がもたらすがん治療の未来」をテーマに記念講演会を開催しました。

がんゲノム医療では、患者さん一人ひとりのがん細胞の遺伝子の特徴をよく調べた上で、がんの原因となる遺伝子の変化が特定された場合は、その遺伝子の変化に対応する治療方法が検討されます。当院においてもがんゲノム外来を新設し、がん遺伝子パネル検査を行っています。

講演会では直江知樹名古屋医療センター院長による基調講演、及び当院のゲノム医療に携わる医師を含めたパネルディスカッションが開催され、近年のゲノム医療の進歩や現在の状況について、また今後ゲノム医療に私たちがどのように関わるかについて、講演・意見交換が行われました。

講演会当日は約290名が受講し、会場が満席となる中、医療の未来に関する議論に熱心に耳を傾けていました。

■ 禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定基金　医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/

QR コードでも
アクセスできます！

TOPICS 特集 4

中央診療棟Bのご紹介
外科系集中治療室（SICU）

多職種連携に基づく チームの力で 大手術後の患者さんの 回復をサポート

外科手術後、重症度の高い患者さんの全身管理を担う、外科系集中治療室（SICU）。中央診療棟Bへの移転により、病床数や設備が充実しました。新たな設備やSICUの特徴について、麻酔科医でSICU副部長の鈴木章悟助教にお聞きしました。

受け入れ体制を強化し、手術ニーズに対応

現在、当院には県内外から多くの患者さんが来院され、各診療科で手術ニーズが増加しています。加えて今後、手術が必要な患者さんは当院のような大規模病院へ集約されるため、術後の人工呼吸管理、循環管理、感染管理、栄養管理などの全身管理を行う集中治療室の拡充が必要になっていました。こうした状況を踏まえて、中央診療棟Bへの移転に伴い、SICUのスペースを拡張しました。病床数を16床から30床へと大幅に増やし、周術期（術前・術後）の患者さんの受け入れ体制、管理体制を強化しました。

手術に特化した設計と感染対策を重視

施設・設備面では、当院では昨年より心臓移植が行われており、人工心肺をはじめ大型の医療機器を装着した患者さんの移動に対応できるよう、病床・廊下の幅を広く取ったレイアウトとなっています。病床は足元が抜けた半個室の設計とし、患者さんのプライバシーへの配慮と経過観察のしやすさを両立させました。また、手術室へのスムーズな動線を重視し、4階のSICU、5階の手術室、6階の会議室・控室などをつなぐ大型の専用エレベーターを設置したほか、薬品や輸液などを運ぶロボット搬送システムも採用しています。

また今後、海外からの旅行者、海外への旅行者が増えることで、海外感染した菌が国内に持ち込まれることによる輸入感染症が増える可能性があります。そこで感染症対策として、前室を備えた陰陽圧室を2室用意し、ウイルスや菌などから患者さんを隔離できる環境を整えたほか、全床に専用手洗いも設置しました。

多診療科・多職種が連携し、世界標準の集中治療を

当院のSICUに入室されるのは、心臓手術、肝移植、肝門部胆管癌の手術、食道癌の手術、再建が必要な頭頸部の手術など大手術を受けた方、合併症の多い方など、他院では対応が困難な患者さんが多く、術後の管理は高度なものになります。そのため、朝夕に十分なカンファレンスを実施し、SICUを運営する麻酔科の医師と主診療科の医師、看護師、理学療法士、薬剤師、感染症対策の医師などが参加して、各部門からの知見を集約することで最善の策を講じています。

今後、集中治療のレベルを一段と上げるために、SICU専従の麻酔科専門医を増やしたいと考えています。そして、確かな根拠に基づいた世界標準の医療を提供するとともに、大学病院として常に最先端の知見や手法を積極的に取り入れていくことも目標です。

健康講座

妊娠中の母子感染症に注意

産科婦人科　助教　今井　健史

皆さん、世の中には妊娠中の妊婦さんが感染するとお腹の中の赤ちゃんに悪影響を起こす感染症があることをご存じですか？昨今、風疹や麻疹については新聞やニュースで報じられることが多いのでご存じの方も多いと思います。今回はこの場を借りてサイトメガロウィルスについてご紹介したいと思います。

サイトメガロウィルスは世界中のいたるところにいる、ありふれたウィルスです。日本では成人の半数以上がすでに感染し免疫を持っています。しかし、妊娠中に初めて感染した場合にはお腹の中の赤ちゃんへの感染が危ぶまれます。症状の重さは様々ですが、感染した赤ちゃんは10～30%程の確率で流・早産となったり、脳や聴力などにトラブルが生じることがあります。サイトメガロウィルスに感染した赤ちゃんに対して有効な治療はないため、予防が非常に大切です。妊婦さんご自身のみならず、周りのご家族皆で正しい知識を身に着けて、サイトメガロウィルスから赤ちゃんを守りましょう。

サイトメガロウィルスから胎児を守るために気を付けること

妊婦さんは、サイトメガロウィルスを含んでいる可能性のある子どもから感染しないよう注意が必要です。

- 以下の行為の後には、頻繁に石けんと水で15～20秒間は手洗いをしましょう。
  - ・おむつ交換
  - ・子どもへの給仕
  - ・子どものハナやヨダレを拭く
  - ・子どものおもちゃを触る
- 子どもと食べ物、飲み物、食器を共有しない
- おしゃぶりを口にしない
- 歯ブラシを共有しない
- 子どもとキスするときは、唾液接触を避ける
- 玩具、カウンターや唾液・尿と触れそうな場所を清潔に保つ

■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

● ボランティアホームページ
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/
「名大病院　ボランティア」で検索♪

平成30年度鶴舞公開講座
「ここまで身近になった！移植医療の最新事情」

開講日時：平成30年12月８日（土）
　　13時00分～15時45分
会　　場：名古屋大学医学部附属病院
　　中央診療棟Ａ　３階　講堂
対 象 者：一般の方
募集定員：200名（先着順）
受 講 料：無料
申込締切：平成30年11月９日（金）

[講座内容]

1．移植医療の実際
　―レシピエント移植コーディネーターの役割―
2．東海地区初の心臓移植
3．肝移植の昔と今
　～ここまで治療できるようになりました～
4．ここまで進んだ腎臓移植！
　―名大病院における取り組み―

[申し込み方法]

名大病院HPから受講申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお送りいただくか、お名前・ふりがな・ご住所・お電話番号・E-mailをハガキまたはE-mailで平成30年11月９日（金）までに下記宛にお知らせ下さい。

★定員になり次第、受付を終了させていただきます。受講いただけない場合のみご連絡差し上げます。

[お問い合わせ・申し込み先]

〒466-8550　名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部・医学系研究科
総務課総務係　鶴舞公開講座担当　あて
TEL（052）744-2774／FAX（052）744-2785
E-mail: iga-sous@adm.nagoya-u.ac.jp

[その他]

駐車場のご用意ができませんので、お越しの際は公共交通機関の利用をお願いいたします。

名大病院 かわらばん　筆 石黒 直樹
No.110　医学部・医学系研究科総務課
TEL 052-741-2111（代表）
発行日　2018年10月1日

HPのご案内
「かわらばん」は、名大病院ホームページでもご覧いただけます。
バックナンバーや災害医療支援活動の状況、医事統計などを掲載しています。
ホームページアドレス　https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/（トップページ⇒病院概要⇒刊行物）